

## 要旨

目的 産業看護職が事業化をするにあたり、組織内の承認を得るためにどのような技術を用いて活動をしているのかを記述し、産業看護職が円滑に事業化を推進するための示唆を得る。

方法 半構造的インタビューによる質的記述的研究である。研究対象者は企業で働く産業看護職のうち、研究協力が得られた者4名であった。

結果 10のカテゴリーと40のサブカテゴリーを抽出した。【 】はカテゴリーを、< >はサブカテゴリーを示す。

組織内で事業化の承認に至るために産業看護職が用いていた技術は、組織内における事業化の承認に向けた段階的な技術として【アイデアを形にする】【他部署を巻き込んで、企画の根拠を固めていく】【必要な情報を揃え、キーパーソンの心を動かす】【根拠のあるデータを揃えて、会議の場で説得する】【会議ではない時間を活かして、事業を承認へと近づける】【組織全体へ取り組みを共有する】があり、企画が発案されてから会議の場で説得し、組織へ取り組みを共有するという流れの中で、これらの技術が用いられていた。この組織内における事業化の承認に向けた段階的な技術に対して【組織の状況を判断し、事業を進める時を待つ】【組織の現状や、社会の動きを事業承認の後押しにする】技術があり、起案のタイミングを見極め、世論や社会の流れを推進力としていた。さらに、【日頃から顔を合わせ、事業が受け入れられる土壌をつくる】【組織を動かす人材として存在感を示す】技術があり、これは産業看護職として、また組織の一員として、日頃の保健活動を通して、将来に向けて時間をかけながら、事業化を推進するために用いられていた。

結論 産業看護職は、組織内における事業化の承認に向けた段階的な技術を用いることにより、計画的・戦略的に事業化に向けて企画を進め、事業化の承認に関わるキーパーソンや組織全体に向けて関わりを持つようにしていた。そして、組織や社会の流れを承認の後押しにする技術、日頃の活動を通して事業化の土壌づくりをする技術を用いることにより、組織内での承認をより得ることができるよう後ろ盾や土壌を築いていた。そして産業看護職はこれらの技術を統合して活用し、組織内における事業化の承認に向けて日々邁進していることが見出された。